



Webサイトもチェック!!

- ▶ メールマガジンやPodCastの配信などWeb独自のコンテンツが満載!!
- ▶ アンケートに答えてオフィシャルスポンサー・薫寿堂様よりお香のプレゼントをゲット!!

フリースタイル 僧侶 検索

<http://freemonk.net>

イベントetc
クローズアップ!!

- ▶ 12/4(Sat) 年末禊ぎの300礼拝 (大阪・岸和田)
- ▶ 12/26(Sun) ボンスクラブ望年会 (京都・ボンスクラブ)
- ▶ 1/20(Thu) カレーと仏教を味わう会 (大阪・天王寺)
- ▶ Every Fri & Sat 19:00-5:30 京都自死・自殺相談 電話窓口

自死問題に本気で向き合う

藤澤克己・自殺対策に取り組む僧侶の会 代表

お年始は山手七福神巡りで福招来!!

専門家の仏教をわかりやすく普遍的に伝える
ヘルシー精進レシビ・白い冬野菜のマリネ

フリースタイルな
僧侶たちの
フリーマガジン

2010/12・2011/1

Vol.9

Japan

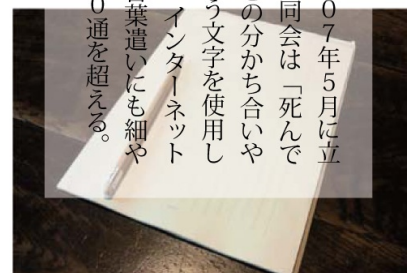
since 2009.8

自死問題に本気で向き合う 「自殺対策に取り組む僧侶の会」の活動

——569人と2300通以上の往復書簡——



安心して悩むことができる社会の実現を目指し、「自殺対策に取り組む僧侶の会」は2007年5月に立ち上げられた。代表は、浄土真宗本願寺派安楽寺（東京都港区）の藤澤克己住職（49）。同会は「死んでしまいたい」と考えるまでに苦しんでいる当事者との手紙のやり取りを中心に、自死遺族との分かち合いや追悼法要などを行っている。なお、同会においては「自殺」という言葉を避け「自死」という文字を使用している。「自殺」の「殺」という言葉自体に悪いものというイメージが含まれているため。インターネット検索や一般的な用語として「自殺」を用いる以外は「自死」を使う。繊細な問題だけに、言葉遣いにも細やかな配慮が見て取れる。これまでに手紙のやりとりをしたのは569人、往復書簡は2300通を超える。



立ち上げのきっかけ

「お寺で育ち、寺院の持つ公益性やポテンシャルを子供のころから感じてはいました。社会人を経験しようと思つたことも、その体験をお寺の中で活かしたいと思つたから。その中でも自死の問題に取り組もうと考えたのは、ニュースなどで『自殺者が減らない』という現状を見聞きしたことからですね」と語る藤澤代表。早稲田大学を卒業後ITエンジニアに。約20年会社員を続け、任職を継いだ後に自死問題に関わるようになる。

現在、年間自殺者は3万人以上。12年間その状態が続いている。「社会のため何かをするのが僧侶の役目だとわかつてはいたが、実際に何をするかは不透明だった。しかし、ニュースでみた自死問題をきっかけに自殺対策のNPO活動に従事し、自死を願う人々の苦悩の生の声を聞いた時、やるべきことは決まった」という。

自死を考える人々の悲痛な叫び

自死念慮者——死んでしまいたい

と考えるほどの苦しみを抱えている人——の声を聞き、藤澤さんが最初に思ったことは「今までの価値観が通用しない」ことだった。「自死をする人は死を望んでいると考えていましたが、実際はみんな『生きたい』と思っていることに気がつかされました。いのちの重さを充分すぎるほど理解した上で『死』を選ばざるをえない状況に追い込まれるのです」。

電話相談などを通じ、自死念慮者たちと触れ合った藤澤さんは自死対策を僧侶の手で行おうと、さまざまな宗派の仲間の僧侶に呼びかけ、会を立ち上げ、「往復書簡」をはじめた。「私の仕事は旗振り役だと思っています。『この指とまれ』と声を掛けて、志を持った方と協働する。もちろん若い方や経験のない僧侶の方でも、気持ちさえ強くあれば悩みに対応することができるようになります」。

組織作りに活かされた社会人経験

「僧侶が法事をすることや、仏法を説くことは大切なことです。しかし、組織的な運営や仕組みなどは、一般企業のノウハウを入れた方が良い場合もあるように感じます」。

同会は、相談の手紙に対して3人の僧侶が一組になって対応する。その上で、担当する一人が責任を持って個人名で清書し、相談者に送付する。その過程において、さまざまなノウハウを吸収することができるようになっている。その仕組みは社会人として組織作りに携わった経験から培われたものだという。

「『自死問題を何とかしたい』という真摯な気持ちさえあれば、対応力は身につけることができる。逆に、どんな力があっても『やらされている』『社会の目があるから、仕方なしに行う』という気持ちでは絶対に続かない」と言い切る。

自死の問題に取り組むと、対応している僧侶自身も精神的苦境に陥る場面もありえる。そうした「逆転移」という状況を作り出さないためにも、同会では「支えあいの精神」を大切にしている。「更に大きく言えば、自死念慮者に対しても、今は縁があつて私たちがサポートしているが、将来的には逆に私たちの方が支えてもらうことがあるかもしれない。社会、世界全体での支えあいの気持ちと行動は、仏教の本質にも通じるのではないだろうか」。

自死念慮者が本来持っている回復力

「自死問題に取り組む間に、確信を持たせたことは、人間には誰でも回復力があるということ。自死念慮者が本来持っている『生きる力』を引き出すことが、私たちの役割」。

手紙では、何かを押し付けることなく、ただひたすらに気持ちに寄り添う。そして、思いを込めて返事を書く。「手紙を出す方は、話を聞いて欲しいと願っている。しかし、今の世の中は相談しづらい。弱音を吐くことが悪いことのように思われている風潮もある。だから私たちは、話を聞く。安心して悩み事を表現してもらおう」。

同会の活動は、自死念慮者だけではなく、

く、自死遺族のケアにも及んでいる。自死念慮者も苦悩しているが、実は残された遺族はまた別の苦しみを抱えている。自責の念などで苦しんでいる遺族たちをさらに苦しめるのは、社会の偏見だという。

まだまだ残る偏見の日

「自死に対する偏見は根深く、『自殺をするのは悪いことだ』といった社会の風潮がある。自死は良い悪いという次元の問題ではないにもかかわらず、『自殺は自分を殺すこと』と安易に人は口にする。そのような言葉の棘が、自死遺族たちの心に突き刺さり、安心して悲しめない」。

自死は決して「がんばれない人」や「いのちを粗末にする人」によって起こるものではなく、誰でもあつても複数の深刻な悩みを抱えてしまふとありえるものという認識が必要だ。複数の大きな悩み事などが重なると、ふと心をよぎるものであつて、決して一部の人だけの問題ではない。「例えばリストラでクビになり、家族に言えずに借金を抱える。心の余裕がなくなり自死を選ぶ。そして残された遺族が『なぜ気づけなかつたのか』と自責の念に苛まれてしまうような事例は本当に多く見受けられます」。

僧侶の本分として法要を

僧侶だからこそできることとして自死遺族に向けた法要を、毎年12月1日に執り行う。「今は東京だけでなく、名古

屋・大阪でも行うようになりました。自死遺族にとって、法要の持つ力は実は大きい。実際に参列した方から『やっと悲しめた』『前向きになれた』との声をいただき励みになりました」。

現在、同会は僧侶の同志を求めている。「僧侶が1000人規模になれば、全国で連携して対応することが可能になります。例えば、メンバーのお寺に、『ここは安心して悩み相談ができる』という印をつけておけば、困った人が駆け込むことができます。より多くの僧侶に自死の問題に関心を持ってもらいたいです」。

(取材 副編集長 仲西俊光
／撮影 福田昇悟)



同会への手紙のあて先は
◇〒108-0073 東京都港区三田 4-8-20 往復書簡事務局
※返信の差出人は、返信する僧侶個人の名前になります。
詳細はHPへ
<http://homepage3.nifty.com/bouzsanga/letters.html>

このほど、フリスター・リーダーズとして運営当初より共に歩んできた、熊谷誠慈 教順寺住職 30歳・広島県が、京都大学の助教に選出されました。専門分野はインド・中国・チベットの中観派思想など。熊谷さんに、研究者として、そして僧侶としての目標などを伺いました。

仏教の視点から

モノを言える人が少ない

今の時代、「仏教」という言葉が安易に使われているように感じる。「こういう時代だからこそ仏教が必要です」と聞きかじったようなニュアンスで「仏教」という言葉がしばしば使用され、話す方も聞く方も「何となく仏教を知った」つもりになっていきます。しかし、仏教をまるですべて知っているかのように語ってしまうと、重大な過失が起こりうると思う

のです。医師の真似事で、間違った処方箋を出せば、時には死をもたらすことがありうるように。

こうした事例が頻出する背景には、仏教の専門家たる僧侶や仏教研究者が「外に発信することに重きを置いてこなかった」という点もある。私の力は微々たるものだが、だからこそ自分よりも有能な僧侶や研究者たちの力をお借りし、彼らと一般の人々との橋渡し役になりたいのです。

研究の内容及び今後の展開について

私の研究の要は「仏教文献学」です。仏教が何かを正確に知るためには、お釈迦様が説かれた文言に近い内容とされている、サンスクリット語等で書かれた原典を精読する必要があります。「仏教とは何か」「ブッダは何を説いたのか」の答えを見つげるため、まずは原典を読み解かねばなりません。しかし、古典文献を現代語に訳するだけでは、ブッダの説いた本質を理解することにはならないのです。お釈迦様のおられた時代の状況はどうであったか、またその説法は誰に対してどのような意図で説かれたものなのか：そうした背景を勘案して考えていく必要があるのです。

仏教の目的は幸福の追求です。したがって仏教の本質を捉えただけで終わりというのではなく、それを応用可能な形で社会に提供していくべきだとの考えから、「応用仏教学」という新たな学術領域を設立し、社会貢献のための仏教学を提案していきたいと思っております。



熊谷誠慈さんを招いてのイベントを1月20日に開催!!
詳しくはp7をご覧ください。

専門家の
仏教を
わかりやすく
普遍的に伝える

お年始は 山手七福神巡りで 福招来!!



【毘沙門天 (清正公)】
覚林寺 港区白金台 1-1-47

【布袋尊】
瑞聖寺 港区白金台 3-2-19
<http://www.zuisho-ji.or.jp>

【福祿寿・寿老人】
妙圓寺 港区白金台 3-17-5

【大黒天】
大圓寺 目黒区下目黒 1-8-5

【弁財天】
蟠龍寺 目黒区下目黒 3-4-4

【恵比寿神 (目黒不動尊)】
瀧泉寺 目黒区下目黒 3-20-26

東京・目黒通り周辺にある6寺院が集まり「山手七福神巡り」を共催。熱いスポットになっている。特に年始の7日までに全てを回り、「ご利益あり!!」と、老若男女を問わず人気だ。

山手七福神の由来は室町時代。お寺から発信されたものではなく、元々は民間信仰として庶民の間で流行った。その後、多くの人々の要望に応えるように各地で七福神巡りを寺院も推奨するように。その中でも山手七福神は江戸時代に生まれ、庶民から愛されたと伝承されている。

七福神はインド・中国・日本の神仏をモチーフにした「恵比寿神」「大黒天」「弁財天」「毘沙門天」「布袋尊」「寿老人」「福祿寿」を奉る日本独特の信仰。多神教な背景を持つ日本の宗教観から生まれたユニークなキャラクターを持っているのも魅力的だ。

山手七福神の会の会長の古市義伸瑞聖寺住職は「普段はお寺に来る機会のない方々に、仏教を知っていただくきっかけになればうれしい。仏教を身近に感じてもらうながら、仏教の教えの本質を参拝者に知ってもらえるように努力していきたい」と語る。

誰でも参加自由なので、煩惱を「ゴーン」と吹き飛ばしに、打ちに行ってみます。

ゴーンと鐘撞き。煩惱を吹き飛ばせ!!



冬らしい野菜をオリーブとケイパーのkokoroでいただきます。ビネガーや砂糖もできれば白く色の薄いものを使って。日持ちのするマリネなので変わりおせちにもおすすめ。

白い冬野菜のマリネ

材料

れんこん 10cm
カリフラワー 1/2個
大根 5cm
セロリ(軸のみ) 1本
ミディトマト 5個

〈マリネ液〉

ビネガー(色の薄いもの) 100cc
水 50cc
上白糖 大3
オリーブ 大1
塩漬けケイパー(水で戻す) 大1
白胡椒(粒のまま) 小1
塩、白胡椒 適量



1 トマトを湯むきする。鍋に湯を沸かし、その中で10秒ほどトマトを温め、すぐ氷水にとる。へたを取ったところから皮が浮くので、そこからむくと簡単。



2 その他の野菜は皮をむいて一口大にカットする(セロリは筋をとる)。後でれんこんとカリフラワーと一緒にゆでることになるので、れんこんはやや小さめにしておくといよい。

れんこんとカリフラワーは変色しないように酢水に浸し、大根とセロリには軽く塩を振っておく(酢と塩は分量外)。



3 れんこんとカリフラワーをたっぷりのお湯でやや硬めにゆでてザルにあげておく(水にさらさない)。

4 マリネ液を作る。戻したケイパーと残りのマリネ液の材料を小鍋に入れ、ひと煮立ちさせる。大き目のボウルに移して粗熱をとる。



5 4のマリネ液に熱いままの3を加え、大根とセロリも塩を洗い流して水気を切った後加える。マリネ液が行きわたるよう軽くあえる。

6 5が冷めたら、トマトを加え、ジップロックなどの保存袋に移す。やさしく空気を抜いて密封し、冷蔵庫で時々天地を返しながらいちじませる。

7 半日ほど置くと食べごろ。冷蔵庫で1週間ほど保管できます。

tips 大根の水分により塩加減を調節してください。また、白い色にこだわって作るなら、オリーブは種を抜いていないホールのもを用い、トマトは別容器でマリネの方がよいでしょう。

written by

Ayaka
Ireguchi

(料理愛好家)

12/4
sat

大阪・岸和田

年末 禊ぎの300礼拝 ～心清らかに新年を迎えよう～

1年間のあいだに溜まった心の垢を洗い流し、清しい気持ちで新年を迎えませんか？

人の心はうつろいやすく、知らず知らずのうちに良くない行いを重ねてしまいます。仏教では古くから年末に仏様のお名前をとなえて、懺悔(さんげ)礼拝する法会をおつとめしています。これを「仏名会(ぶつみょうえ)」といいます。現在でも、天台宗や真言宗では僧侶の修行に用いられるなど、よく実践されている法会です。

仏名会は『仏名経』に説かれる次の言葉に由来します。

「もし善男子善女人諸の仏名を受持すれば、この人は現世安穩に諸難を遠離し、及び諸罪を消滅し、未来にまさに阿耨多羅三藐三菩提(＝最上の悟り)を得べし。」

仏様は過去・現在・未来にそれぞれ1,000ずついらっしゃると思いますが、今回はこのうち300の仏様のお名前をおとなし、それぞれに礼拝します。礼拝行をかさねていく中で、1年間のさまざまな行いを反省し、心を清らかに整えていきましょう。

最後には、新年が幸多いことを祈願いたします。

日時：平成22年12月4日(土) 14時～19時
日程：第1部 14時～15時 チベット体操+ストレッチ in ヨガ
15時～17時 阿字観瞑想教室
第2部 17時20分～19時 仏名会 禊ぎの300礼拝
会場：真言宗薬師院
596-0054 大阪府岸和田市宮本町28-22
(南海本線「岸和田」駅より徒歩10分)
参加費：第1部 500～1000円 / 第2部 200～500円
定員：30名(第1部・2部とも)
※お納めいただいた参加費は寄付活動に用います。
※一般の方は動きやすい服装でお越しください。また、汗だくになる可能性があるので、お着替えをお持ちください。
僧侶の方はよろしければ如法衣をご被着ください。

■お申し込み・お問い合わせ
フリースタイルな僧侶たち 代表 池口龍法
Tel (090)5896-6478 / senrenja@gmail.com
※「フリースタイルな僧侶たち」ホームページからも申し込みできます。

仏教 体感

12/26
sun

京都・北区

ボンズクラブ望年会 ～映画鑑賞したり食事したり 語り合ったりの夜～

杉若恵亮和尚(写真右)が提供する出逢いの町家THE BONZEクラブ「堀北庵」。この空間で、毎月開催される「つきいちボンサンと語ろう会」は、年齢、性別、宗教など一切の枠を越えて、誰でも気軽に語り合える楽しいひとときだ。

そして、待っていました。今年も年末恒例の「望年会」!!

今年「堀北庵」内に誕生したAVルームで映画を見ながら、本場インドのカレーを食べながら、1年間の辛いことを忘れるだけでなく、杉若和尚とともに新年に寄せる夢や希望を語り合おう!!

日時：平成22年12月26日(日) 16時
会場：THE BONZE クラブ「堀北庵」
〒603-8174 京都府京都市北区紫野下柳町47-1
(京都市営地下鉄「北大路」駅下車徒歩10分)
参加費：2,000円

■お申し込み・お問い合わせ
THE BONZE クラブ
Tel / Fax (075)432-8716 / http://bonzeclub.net

1/20
thu

京都・下京区

京都の町屋で カレーと仏教を味わう会 ～古代インドと日本の仏教～

「お坊さんと気軽に話す時間があれば、きっと社会も明るくなるはず」「この町屋がそのための空間になれば」——仏教にそんな期待を寄せる、タイ料理レストラン「佛沙羅館」オーナーの宇野克子さんのご好意により、「カレーと仏教を味わう会」を平成22年11月より実施しています。タイ国商務省によって、「本場のタイ料理を味わえるレストラン」と認定される本格派のお店でカレーを食べながら、気軽に仏教を語ってみませんか？

第3回となる今回は、本誌インタビューで、研究者として、そして僧侶として、仏教を世の中に広く説いていきたいと語った熊谷誠慈さんにお越しいただきます。「インド仏教の歴史は現在どこまで明らかになったのか?」「お釈迦様の教えをいま私たちはどのように受け止めればいいのか?」などなど、日頃聞けない疑問を楽しく語り合きましょう。もちろん、仏事や悩みごとの相談なども受け付けます。

日時：平成23年1月20日(木) 19時開始～21時30分終了予定
会場：タイ料理 佛沙羅館
〒600-8015 京都市下京区木屋町通松原上ル美濃屋町173-1
Tel (075)361-4535
http://www.bussaracan.com
(阪急電鉄京都線「河原町」駅より徒歩7分
京阪電鉄「四條」駅より徒歩10分
タクシーにて木屋町高辻東入ル)
参加費：2,000円(フリスタ会員は1,500円) ワンプレート付
定員：20名(事前にお申し込みください。)
※参加費の一部は寄付活動のために用います。

■お申し込み・お問い合わせ
フリースタイルな僧侶たち 代表 池口龍法
Tel (090)5896-6478 / senrenja@gmail.com
※「フリースタイルな僧侶たち」ホームページからも申し込みできます。
※レストランに直接お申し込みいただいても構いません。

Every
Fri & Sat

(075)365-1616

京都自死・自殺相談センター ひとりで悩まずお電話ください

平成22年5月に発足した京都自死・自殺相談センター。代表の竹本了悟さんと副代表の野島靖さんはともに浄土真宗本願寺派の僧侶で、約3年前から自死問題に関心をもち、研修を受けてきた。

「ひとりでいるとついつい思い詰めてしまう。誰かに話せば、まずは今日1日だけでも生きようと思えることがある」と優しい表情を見せながらも力強く語る竹本さん。そして、「死にたいという相談を受けるので、自分自身の支えとなる信仰を持つことは重要」と僧侶らしい言葉も。

センター発足当初は10人だったスタッフも、いまでは35人にまで増えた。僧侶はそのうちの半数に満たない。一般の方々のボランティアに支えられて協働することで、社会の隅々にまでゆきとどくセーフティネットとしていくのが狙いだ。

「仕事をしている人でも夜間に相談できる窓口を作りたかった」と、平成22年10月から週末は夜通し電話相談を受付中。ゆくゆくは24時間相談を受けられるように目指しているという。

■京都自死・自殺相談センター
相談窓口：(075)365-1616 (金・土曜日 19時～5時30分)
※死にたいほどの悩みを抱える方に、完全秘密厳守で電話相談に応じます。

〈ご協力のお願い〉
京都自死・自殺相談センターへのご支援をお願いいたします。
会費は1口3,000円。詳細は事務局までご連絡ください。
事務局Tel：(075)365-1600 / http://www.kyoto-jsc.jp

フリスタ・クラブ会員募集中!!

私たちの活動に共感し、応援していただける方を大募集中!!
「サポーターズ・クラブ」と「リーダーズ・クラブ」があります。

■フリスタ・サポーターズ・クラブ(個人)

対象者 フリスタを応援していただける方

協賛年会費 5千円

※ フリスタ・サポーターズの皆様には、年間6回発行予定の本誌をお届けします。また、フリスタ主催の各種イベントにおいて、優待いたします。

■フリスタ・リーダーズ・クラブ

対象者 仏教に関しての資格や知識を持ち、フリスタの指導者として活動していただける方

協賛年会費 1万円

※ フリスタ・リーダーズの皆様は、フリスタの指導者として、各種活動に参加していただけます。また、フリスタ・サポーターズ同様のサービスも含まれています。

お申し込み、お問い合わせは、フリースタイルな僧侶たち編集部(電話番号などは下記)まで。ホームページからもお申し込みいただけます。



表紙作品
「宇宙からの鐘と
新年への祈り」

釋本有

日本の島々に宇宙から
除夜の鐘が響きわたる。
新しい年に
多くの幸せあれ!!

中国香港の僧侶。70年代に香港に生まれ、90年代に日本留学を経て、東京芸術専門学校(TSA)美術専門課程研究科卒業。帰国後は主に中国の寺院にて絵画の発表を行う。

本有は、特別宣紙の皮紙に、修行生活からイメージした仏教世界を描き、その作品は非現実的な世界が現出されるのが特徴的である。

仏と優しい光あふれるその空想画は、「心に安らぎをもたらす絵」として、中国老若男女幅広い層で多くの支持を得ており、デビュー以来、画集・カレンダー作品集等を出版発表。

現在は、中国の福建寺・大理に活動の拠点を置き、アジア各地を訪問しながら精力的に制作活動を行っている。

協賛の報告

本誌発行にあたり、ご支援いただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。以下に、法人サポーターの方々のお名前のみ掲載させていただきます。

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 安心院
(京都府八幡市・浄土宗) | 崇福寺
(滋賀県甲賀市・浄土宗) |
| 安楽寺
(京都府南丹市・浄土宗) | 大圓寺
(東京都目黒区・天台宗) |
| 石尾山弘法寺
(大阪府和泉市・真言宗) | 臺鏡寺
(大阪府枚方市・浄土宗) |
| 延命寺
(大阪府堺市・浄土宗) | 檀王法林寺
(京都府京都市左京区・浄土宗) |
| 円融寺
(東京都目黒区・天台宗) | 長壽院
(東京都台東区・浄土宗) |
| 教伝寺
(京都府船井郡・浄土宗) | 念佛寺
(三重県伊賀市・浄土宗) |
| 九品寺
(京都府京都市南区・浄土宗) | 梅窓院
(東京都港区・浄土宗) |
| 光照院
(東京都台東区・浄土宗) | 法善寺
(大阪府大阪市・浄土宗) |
| 光明院・田中医院
(京都府京都市中京区・浄土宗) | 法然院
(京都府京都市左京区) |
| 光明寺
(滋賀県草津市・真宗正派) | 法華寺
(京都府亀岡市・日蓮宗) |
| 西明寺
(兵庫県尼崎市・浄土宗) | 薬師院
(京都府岸和田市・真言宗) |
| 浄栄寺
(滋賀県東近江市・浄土宗) | 龍光寺
(和歌山県海草郡・日蓮宗) |
| 浄観寺
(滋賀県甲賀市・浄土宗) | 和光寺
(和歌山県海草郡・日蓮宗) |
| 浄元寺
(兵庫県尼崎市・浄土真宗本願寺派) | 和光寺
(和歌山県海草郡・日蓮宗) |
| 正善寺
(兵庫県伊丹市・浄土宗) | 和光寺
(和歌山県海草郡・日蓮宗) |
| 勝楽寺
(東京都町田市・浄土宗) | 和光寺
(和歌山県海草郡・日蓮宗) |
| 信覚寺
(福岡県朝倉郡・浄土真宗本願寺派) | 和光寺
(和歌山県海草郡・日蓮宗) |
| 瑞聖寺
(東京都港区) | 和光寺
(和歌山県海草郡・日蓮宗) |
- ※ 協賛は随時受け付けています。

フリースタイルな僧侶たちのフリーマガジン

平成22年12月1日発行 第9号

発行元 フリースタイルな僧侶たち 編集部

〒661-0982 尼崎市食満6-11-15

TEL.090-5896-6478(池口) / 070-5658-4922(仲西)

info@freemonk.net

http://freemonk.net

※ 本誌のコンテンツを無断で転載することを固く禁じます。

表紙イラスト

題字

写真

DTP&デザイン

ライティング・

ディレクション

企画・制作・編集

総指揮

釋本有

しらたきなべお

福田昇衍

池口龍法 bdt

仲西俊光

池口龍法 仲西俊光

池口龍法